

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100652		
法人名	特定非営利活動法人 福井福祉医療開発研究所		
事業所名	グループホーム レインボー灯明寺		
所在地	福井県福井市灯明寺町59字12番1		
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、本人のペースに合わせゆつくり過ごしていただいています。生活リハビリに取り組みできることへの支援に努めています。併設してしている認知デイサービスの方とも交流し、合同でレクをしたり楽しく過ごせるよう努めています。季節の花々を見に外出したり、近所を散歩する等して気分転換をしています。運営推進会議の際、避難訓練の様子を見ていただき消火器訓練の方法も実際に体験していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋で屋根が高く、天井に窓があるため、開放感が感じられる。デイサービスセンターが併設されており、利用者の希望に応じてデイサービスセンターのプログラムや場所を活用している。職員は「笑顔」を重視したケアを目指している。また、地域の小中学校で認知症の理解に関する講義や介護職を紹介したり、大学生、介護福祉士、ヘルパー等の実習生を積極的に受け入れたりして地域貢献し、福井市から「認知症にやさしいまちづくり協力事業所」として認定されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングを行う場所に理念を掲示し、職員それぞれが読み上げてから仕事をするようにしている。	全職員の目標を統合して理念を作成し、職員は仕事前に各自で唱和している。理念「優しさと思いやりを大切に、笑顔のあふれる生活の場を目指します。」の中で、特に「笑顔で接すること」を重視している。	理念を作成してから1年を経過したため、理念に合う実践となっているか振り返るとともに、各職員の課題を明らかにする取組みに期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地区行事に参加している。(市の防災訓練、公園清掃、地域の祭り等)散歩の際も地区の方と挨拶を交わしたり会話を楽しんでいる。地域の方からのボランティアも受け入れ、定期的に交流を図っている。	自治会に加入し、利用者とともに地域行事に参加している。利用者は近隣の方が多く、近くの薬局、コンビニ、喫茶店、寿司店等を積極的に利用し、散歩等で地域住民との会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の勉強会を行い、ケアの方法をアドバイスしている。地域児童クラブの認知症サポート講座に参加したり、中学校の福祉教育講座に出向いたり、大学生の福祉体験の場として提供する等認知症理解の為の活動が認められ「認知症にやさしいまちづくり事業所」として認可された。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告のほか、その時関心のある制度についての資料を添付し説明している。	2か月に1回、民生委員、地域包括支援センター職員、複数名の家族の参加を得て実施している。家族に避難訓練への参加を促したり、介護保険制度やマイナンバー制度等について情報提供を行ったりしている。議事録はいつでも閲覧できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からのお知らせやパンフレット、新聞の切り抜き等、玄関入口に掲示している。	介護保険制度や事業所運営に関して随時市へ問合せ、その内容を丁寧に記録している。市の介護保険事業計画策定に対してパブリックコメントを提出している。また、市の介護者の集い等について掲示板で家族に知らせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項説明書に記載し、職員間でも申し合わせている。	身体拘束防止マニュアルを整備している。ベッドで柵を越えようとする場合はマットレスに変更するなど工夫している。玄関にセンサーを設置し、利用者の外出を把握して支援している。玄関は夜間7時から朝7時までのみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会も行っているため虐待はない。職員全員に徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設代表者は社会福祉士を取得し成年後見制度に関する研修にも積極的に参加している。必要のある家族に活用のための説明をできるようにしており、裁判所に出向き申請のための学習もしたことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・退去するにあたり家族の方の不安な点、疑問点について十分話し合い理解してもらっている。 面会の際に話があった時はその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口及び職員について、契約時に話している。苦情があった時は早急に対応し返答するようにしている。	家族からは面会時、ケアプラン作成時、ケア会議時、運営推進会議時等に意見や要望を聞き取っている。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	早期退職せず長期にわたって働けるように勤務内容の見直しや、意見の取り入れを行っている。	職員は、施設長や管理者に対して、気軽に運営に関する提案や意見を述べたり、勤務内容等について相談したりしている。また、配置転換の際は、施設長より全職員にアンケートを実施し、希望者には面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回昇給がある。また勉強会での優秀指導者には、金一封が出るようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には機会がある毎に参加してもらっている。職場内勉強会の指導は、職員が内容を検討し行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。グループホーム同士での職員研修等もあり参加している。また地域包括の連絡協議会にて事例検討会等の勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面会の時に本人と話す機会を持ち、気になっていることや不安に思っていることを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が見学や申し込みに来た際、困ったこと、不安なこと等話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、申込みに来られた際の話によっては、他のサービスを勧めている。また早急な対応が必要と感じた時は他の施設への申込みも勧め、紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するという考えではなく共に寄り添って、生活リハビリを行いながら本人らしく生活出来るよう一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時に家族の思い、不安や不満、希望についても十分聞くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟姉妹、学生時代の友人や近所の方が面会に来られる。	入居時に、利用者・家族からなじみの場所や友人・知人等を聞き取り、友人・知人宅への訪問、なじみの美容院、墓参りなどを、家族の協力のもと支援している。兄弟、友人などが来訪の際は、その様子を写真に収め、家族にアルバムとして提供し好評を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時等仲の良い利用者が一緒に行けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた後でも面会に行き、相談員と連携しながらその後のサービス利用の相談や支援に努め、ご本人や家族が困らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で利用者の思いを聞き、できる事はなるべく叶えるようにしている。	入居時に、利用者・家族から自宅での過ごし方や望む生活について聞き取り、できるだけこれまでの生活の延長となるよう配慮している。運動を希望する場合は、デイサービスセンターの口腔体操やリハビリ体操、ラジオ体操等への参加を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から過去のことを聞いたり、昔のことをよく覚えている方からも生活歴を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックや排泄チェックを行い、健康管理に努めている。一日の過ごし方も記録に記入し、少しの変化にも気付けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会やケアプラン説明時に家族の声を聞くようにしている。	ケアマネジャーは、担当職員とともに利用者・家族の意見を聴取してケアプランを作成し、病状の変化、服薬の変更、身体状態に応じて随時変更している。モニタリングは毎月実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度介護記録に記入し職員が目を通すようにしている。ミーティングや連絡ノートに記入し、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の要望に応じて、受診や買物への付き添いの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回ボランティアの方が来て下さり、歌や踊りのショーを見て参加交流することで楽しむことができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者を中心に考え、かかりつけ医がある場合はそのまま継続し受診していただいている。変化があった時は受診に付添い医師に伝えたり、手紙を添えるようにしている。	利用者・家族が希望するかかりつけ医を、基本的には家族の同行で受診するが、必要に応じて職員が同行する。生活上の情報は書面で医師に伝えている。車いす利用者の場合、事業所の車で送迎している。歯科医の訪問がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護職員1～2名配置し、日頃の健康管理を行っている。受診が必要な時は看護師が受診に付添い医師に状態を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームに入居中であることを理解してもらい、早期退院をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しているが、話し合い説明の上対応している。重度化した場合は医療機関、老健施設や介護老人福祉施設等、他施設の紹介を行っている。	契約時に、重度化した場合や終末期の対応は行っていないことを文書で伝えている。重度化した場合等は、介護老人保健施設や特別養護老人ホーム、病院などの情報提供を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し勉強会も行っている。マニュアルは事務所内の棚にわかりやすく保管しており、職員誰もが目を通せるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力にて年2回の避難訓練を実施し、避難方法・消火訓練を学んでいる。新たに水害マニュアルも作成した。	年2回消防署の協力の下、避難訓練を行っている。従来の災害対応マニュアルに、水害時の認知症対応の視点を盛り込むなどし、より実践的な内容になるよう工夫している。	夜間の災害時における避難に関して、地域住民等からも協力を得られるよう、引き続き運営推進会議等を活用した取組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けや確認は他の方に聞こえないように小声で行うように指導している。また、人生の先輩という気持ちで対応するように心掛けている。	トイレ、入浴介助は基本的に同性介助としている。脱衣所はパーテーション等で見えないよう工夫している。居室は中から鍵をかけることができる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やレク等は利用者任せ選択していただいている。 入浴の曜日は決まっているが、時間等は希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ等、あとで食べたいという方には時間を遅らせて、本人のペースで食べて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問ヘアカットを利用する方、なじみの美容室へ通う方がおられ、好みの髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の希望を聞くようにし、献立作成に活かしている。 食器洗いや皿拭きの手伝いをお願いしている。	好みの食材や献立を聞き、献立を作成している。ソフト食を導入したり、行事食や誕生日にケーキを提供したりしている。利用者は家で使用していた茶碗と箸を持参し、食器洗いなど得意なことを担当している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の方に合わせ、量や食べ易い大きさ、形状にして提供し、完食できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯は夜間外してもらい消毒するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握できるよう排泄チェック表を活用している。誘導の必要な方には声掛けに気をつけながら行っている。	排泄チェック表で排泄パターンやおむつの使用状況等を把握している。他の利用者に分らないように配慮しながらトイレに誘導している。下剤を使用する場合は、予め医師より指示を得て対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のおやつはフルーツ(バナナ等)を摂るようにしている。便器気味の方には牛乳を飲んでもらう等している。体操等を行い身体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番や湯の温度等、利用者の希望を聞いている。介助者に女性を希望される方は女性職員が付くようにしている。	基本的に週2回としているが、希望により別日も対応している。デイサービスセンターの職員とともに2人体制で入浴介助をしている。感染症予防のため、浴場の足マットを利用者毎に交換している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣のある方には自室にて休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ファイルに保管している。その他、看護職員が何を服薬しているかわかりやすく表記している。薬のセットは2人でチェックすることでセットミスを防いでいる。服薬時は薬を飲み込むまで職員が見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみ、調理手伝い等その方のできる事をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力のもと、家族、友人との温泉宿泊や外食に出掛けたり、家に帰って過ごしたりしている。お盆はお墓参りにも出掛けている。天気の良い日は近所を散歩したり地域の方と挨拶を交わしたりしている。	利用者の希望を聞き、家族の協力の下、温泉旅行などを勧めている。天気の良い日は、近くの公園などに出かけ、地域住民と交流を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで管理している方が多いが、自分で小遣い程度を所持している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望する時はこちらから掛けて会話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の棚に利用者の方に作っていただいた、季節に合わせた飾り付けをしている。フロアボードには写真等を飾り、ご家族に見ていただいている。	共用空間には利用者が作成したのれん、マスコット等を飾り、楽しい空間となるよう工夫している。また、天井に窓があり、開放感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士同じテーブルに座っていただくようにしている。ソファでも自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が今まで家で使用していた思い出の品物を持ってきていただき、自分だけの落ち着いた部屋にしている方もおられる。	居室には家族の写真や思い出の品物が飾られ、入り口には季節の飾り物が掲げられている。また、家族が訪問した際は、他の利用者を気にせず、ゆっくり話せるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン作業ではまず職員が手本を見せ、見守りを行うことで自信を持ち作業している。晴れた日はベランダに出て、職員と一緒に洗濯物干しを手伝っている。出入りの際段差に気を付け見守りをしている。		